

社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	琵琶湖流域における河川環境の保全・再生対策の推進						
計画の期間	平成27年度～	令和1年度(5年間)	交付対象	滋賀県			
計画の目標	琵琶湖総合保全整備計画(第2期)に基づき、自然環境保全対策を実施することにより、琵琶湖流域の生態系の保全・再生を目指す。 突堤や養浜等の砂浜保全対策などによる自然環境保全対策により、湖岸の保全と自然環境の再生を図る。						
計画の成果目標(定量的指標)	琵琶湖の水質について、水質保全対策を実施することにより、COD、全窒素、全リンについて、水質目標値まで改善する。 突堤や養浜等の砂浜保全対策などによる自然環境保全対策を新たに1,000m実施する。						
定量的指標の定義及び算定式				定量的指標の現況値及び目標値			備考
				当初現況値 (H27当初)	中間目標値 (H29末)	最終目標値 (R1末)	
琵琶湖の水質	T-N(南湖)			240 μg/l	-	240 μg/l	
琵琶湖の水質	T-P(南湖)			12 μg/l	-	12 μg/l	
砂浜保全や人工護岸の再自然化等により湖岸を保全した延長				0m	600m	1000m	
全体事業費	合計 (A+B+C)	640百万円	A	640百万円	B	-	C
				0百万円			効果促進事業費の割合 C/(A+B+C)
							0.0%

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期	事後評価の実施時期	令和元年12月19日
事後評価の実施体制	公表の方法	滋賀県公共事業評価監視委員会にて一般公開
滋賀県公共事業評価監視委員会にて、事後評価を実施		

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業																		
A8 その他総合的な治水事業																		
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	事業及び 施設種別	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	備考
										H27	H28	H29	H30	R1				
A08-001	総合治水	一般	滋賀県	直接	滋賀県	環境	甲賀・湖南圏域総合流域防災事業	マイアミ浜他1河川 砂浜保全、自然再生	草津市、野洲市						390		-	
A08-002	総合治水	一般	滋賀県	直接	滋賀県	環境	東近江・湖東・湖北・湖西圏域総合流域防災事業	近江白浜他3河川 砂浜保全	高島市						250	9.0	-	
										小計					640		-	
										合計					640			
C 効果促進事業																		
C1 河川効果促進事業																		
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考		
										H27	H28	H29	H30	R1				
														...				
										小計					...			
番号	一体的に実施することにより期待される効果													備考				

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関する 交付対象事業の効果の発現状況				<ul style="list-style-type: none"> マイアミ浜の突堤工や養浜工による砂浜保全事業の進捗に伴い、砂浜を保全することにより湖辺域の多様な生物の生息・生育場所に寄与できた。 湖西圏域の突堤工や養浜工、緩傾斜護岸工による砂浜保全事業の進捗に伴い、砂浜を保全することにより湖辺域の多様な生物の生息・生育場所に寄与できた。 			
II 定量的指標の達成状況	指標①(琵琶湖の水質T-N(南湖))	最終目標値	240 μg/l	目標値と実績値に差が出た要因	湖沼の浄化事業、下水道の整備や工場排水規制等、水質の保全に資する事業を実施し、水質は改善傾向を示していますが、近年は琵琶湖の水温が高かったり、夏場のプランクトンの増加、また、台風による濁りの増加により水質にも影響を及ぼしたと考える。		
		最終実績値	320 μg/l				
II 定量的指標の達成状況	指標②(琵琶湖の水質T-P(南湖))	最終目標値	12 μg/l	目標値と実績値に差が出た要因	湖沼の浄化事業、下水道の整備や工場排水規制等、水質の保全に資する事業を実施し、水質は改善傾向を示していますが、近年は琵琶湖の水温が高かったり、夏場のプランクトンの増加、また、台風による濁りの増加により水質にも影響を及ぼしたと考える。		
		最終実績値	19 μg/l				
II 定量的指標の達成状況	指標③(砂浜保全や人工護岸の再自然化等により湖岸を保全した延長)	最終目標値	1000m	目標値と実績値に差が出た要因			
		最終実績値	1163m				
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)							
IV 特記事項(今後の方針)				琵琶湖総合保全整備計画目標である「琵琶湖流域生態系の保全再生」と「暮らしと湖の関わりの再生」を達成するため、河川環境整備事業の推進が必要である。 良好な琵琶湖の湖岸を維持したり、豊かな生態系を復元したりするため、砂浜保全対策や人工湖岸の再自然化の推進に取り組む。			